

全国学力・学習状況調査（6年生対象）の結果から

今年度の4月に6年生が行った、「全国学力・学習状況調査」の結果について御報告します。実施教科は国語、算数、理科の3教科で、その他に学習意欲や生活の諸側面等に関する質問紙調査が実施されました。

図1が全国平均と本校児童との比較、図2が神奈川県平均と本校児童との比較です。二重円の内側の円がそれぞれ全国平均、神奈川県平均を示し、円の外側へいくほど数値が高くなり、逆に円の中心に向かうほど数値が低くなっていることを示しています。

また、国語、算数ともにAは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題となっています。

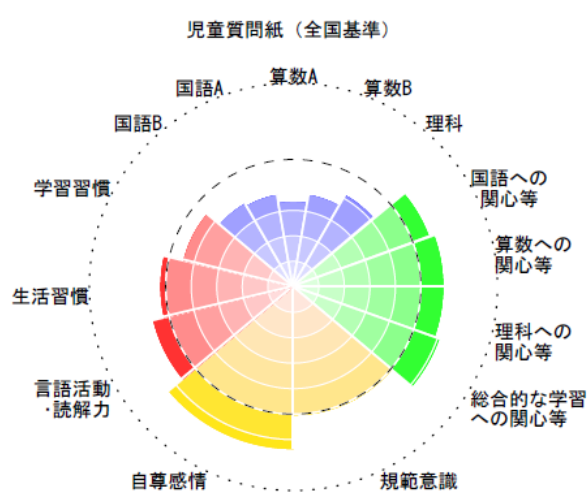


図1 「全国平均」との比較

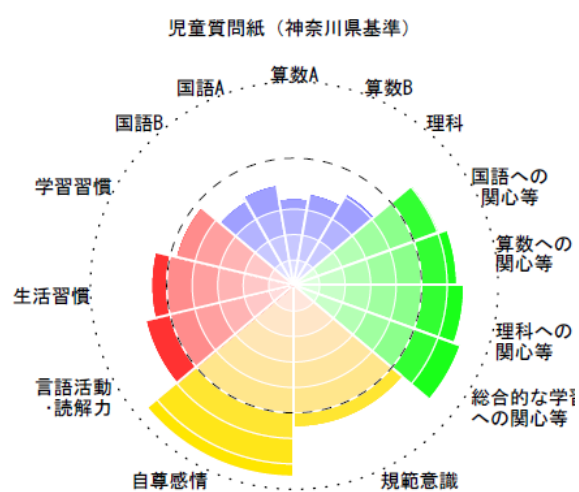


図2 「神奈川県平均」との比較

結果を見ると、規範意識、生活習慣への意識については神奈川県、全国の平均に近いものとなっていました。その他の意識、言語活動・読解力、自尊感情、国語・算数・理科・総合的な学習等の教科・学習への意識は神奈川県・全国平均を上回っていました。特に自尊感情と教科・学習への意識については平均を大きく上回っており、本校児童が意欲をもって活動していること、達成感を感じながら自分を大切に思う気持ちが育っていることなどがわかりました。反面、学習習慣の数値は平均より低くなっており、意識はありながら行動としての習慣が身につけていない児童がいることがうかがえました。習慣として身につけられるよう、御家庭の協力を得ながら、継続して粘り強く取り組んでいくことが望まれます。

国語、算数、理科の調査の結果としては、3つの教科とも平均より低い傾向が見られます。特に算数の基礎的内容である算数Aの結果が他の項目より低くなっており、基礎的内容の定着をより図っていく必要があることがわかりました。ただし、前年度の結果と比較すると学習面の結果としては大きく変わっていませんが、学習への関心、自尊感情の面では大きく数値が上がっています。

今ある関心意欲を大切にしながら、基礎・基本の定着を図るために継続して取り組むことや、努力を評価することでさらに意欲を高めていけるように、学年担当だけでなく学校全体として取り組んでいきます。